

大学院グローバルイノベーション研究院
第4期中期目標・中期計画期間
国際共同研究の指針と体制

令和4年4月14日



Institute of Global Innovation Research
TOKYO UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND TECHNOLOGY

学長 ビジョン

コロナ禍を 経て...

戦略2 研究連携による新機軸の創成

- 国際共同研究拠点 Global Research Hubの設置
- 質の高い研究成果の発信と知的財産の創成・活用

戦略4 自立化を推進するガバナンスと経営基盤強化

- 国際的な知の共有化拠点の形成
- プライベートセクターからの戦略的な資金導入に基づく持続的な「経営資源」の確保

- 外国人研究者の来日と若手研究者の海外派遣が激減
- オンラインでの共同研究に移行し、国際共著論文数は増加傾向
- 一方で初期の関係構築には対面が望ましく、今後も来日招聘を基本とした戦略的研究チーム活動が必要

第4期GIRミッションの再定義

(1)戦略的研究チーム等による国際共同研究の推進

- ・著名な外国人研究者との国際共同研究の推進
- ・外国人研究者来日招聘による本学教員との関係構築
- ・国際共著論文の増加

(2)国際共同研究拠点 Global Research Hub (以降「GRH」)

- ・国際共同研究実績を活用した、資金獲得力を有する自立した研究拠点の形成
- ・チーム活動時代より発展した質の高い研究成果の発信による本学のプレゼンス向上
- ・外国人教員採用奨励・サポートによるダイバーシティとインクルージョンの実現
- ・海外からの外部資金獲得に係る各種支援

(3)若手研究者育成事業

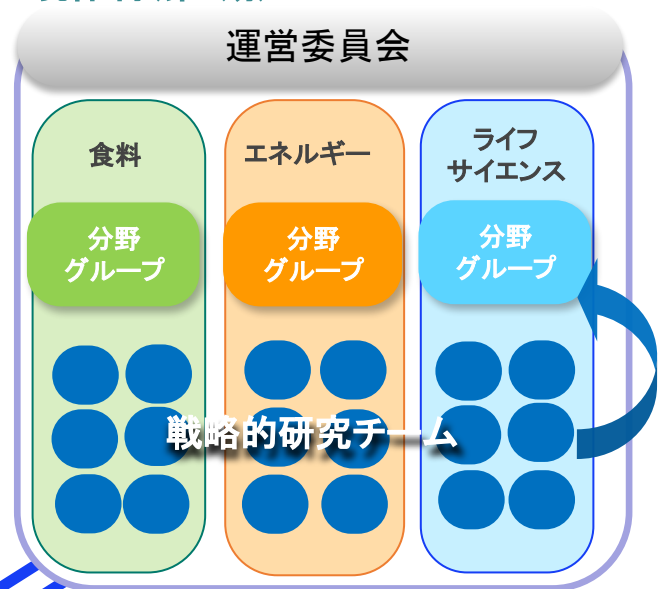
- ・柔軟な人事制度による若手研究者人材の登用・育成(第3期から継続)
- ・GIR国際共同研究への参加奨励(若手の渡航支援等)

GIR研究体制の移行

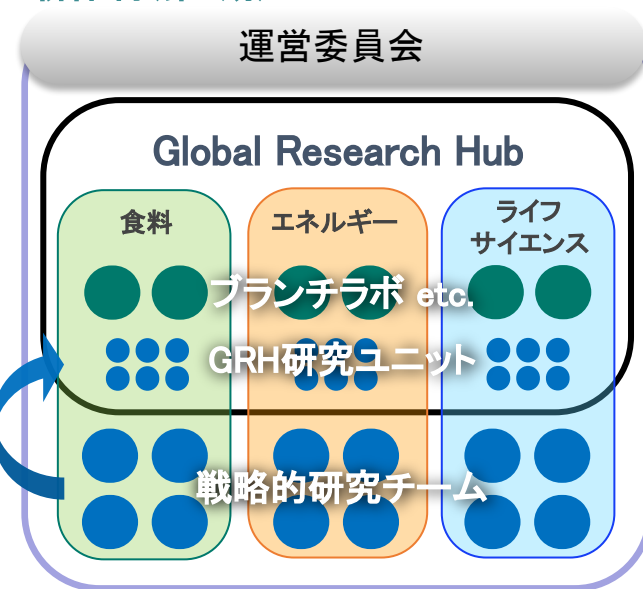
分野グループをユニット単位に細分化してGRHに編入

※チーム終了後に継続活動する際はGRH所属の「研究ユニット」として外国人研究者と本学教員が組んで共同研究を推進する。

現体制(第3期)



新体制(第4期)



チーム終了後、外国人研究者が引き続き在籍する場合は所属が変わる



戦略的研究チームとGRH研究ユニットの目的

GIR国際共同研究体制の全体方針：

コロナ禍を経て、関係を構築できた後はオンラインでも連携できるが、そこに至るまでには対面（来日招聘）でのコミュニケーションを要することが分かった。この事を踏まえ、第4期においては、

- ① **対面（招聘・海外派遣）での初期関係の構築** を趣旨とした **戦略的研究チーム**
- ② チーム終了後の **一段階発展した国際共同研究の継続推進** を趣旨とした **GRH研究ユニット** の **2層構造** で国際共同研究を推進する。

戦略的研究チーム：

- これから **外国人研究者との関係構築を進める若手研究者への支援** を趣旨とする。
- これまでの区分（一般枠・若手枠）を撤廃し、全般的に **若手研究者の参画を奨励** する。
- 人件費・赴任旅費等の予算は若手枠に準ずる*が、来日招聘費用を海外派遣・出張費用に充てることも可能し、共同研究・関係構築を推進する。

*R3年度から継続する既存の一般枠チームは別扱いとし、外国人研究者人件費・赴任旅費の予算額は据置きとする。



戦略的研究チーム・GRH研究ユニット

GRH研究ユニット：

- チーム活動終了後において **一段階発展した国際共同研究の継続推進** を趣旨とする。
- 各ユニットは **GRHミッションに資する研究計画・目標** をもって共同研究を推進する。
- チーム同様に人件費・赴任旅費等の支援は実施するが、基盤的な配分ではなく、研究計画に応じた柔軟な配分を行う。
- 特に来日招聘については連続した1ヶ月以上の来日を奨励しており、1ヶ月未満の来日については人件費を支給せず、旅費・滞在費のみの支給とする。

GRHミッション(再掲)：

- ・国際共同研究実績を活用した資金獲得力を有する自立した研究拠点の形成
- ・チーム活動時代より発展した質の高い研究成果の発信による本学のプレゼンス向上
- ・外国人教員採用奨励・サポートによるダイバーシティとインクルージョンの実現
- ・海外からの外部資金獲得に係る各種支援



国際共同研究拠点 Global Research Hub

GIR研究成果の発展と海外外部資金収入の増収には **重点的な予算投入** が必要。

R2年度

Global Research Hubの
設置

海外共同研究情報
提供システムの構築

オープンイノベーション・ラボ
スペースの整備

多様な国・地域からの留学生、インターンシップ学生の受け入れ強化

R3年度

外国人PI教員サポート

海外公的研究費申請書翻訳・校正支援
海外外部資金マッチングファンド
海外研究資金獲得コーディネーターの採用配置

サバティカル奨励 / 積極運用

海外研究者・企業のブランチャラボ誘致
装置の共同利用基盤構築

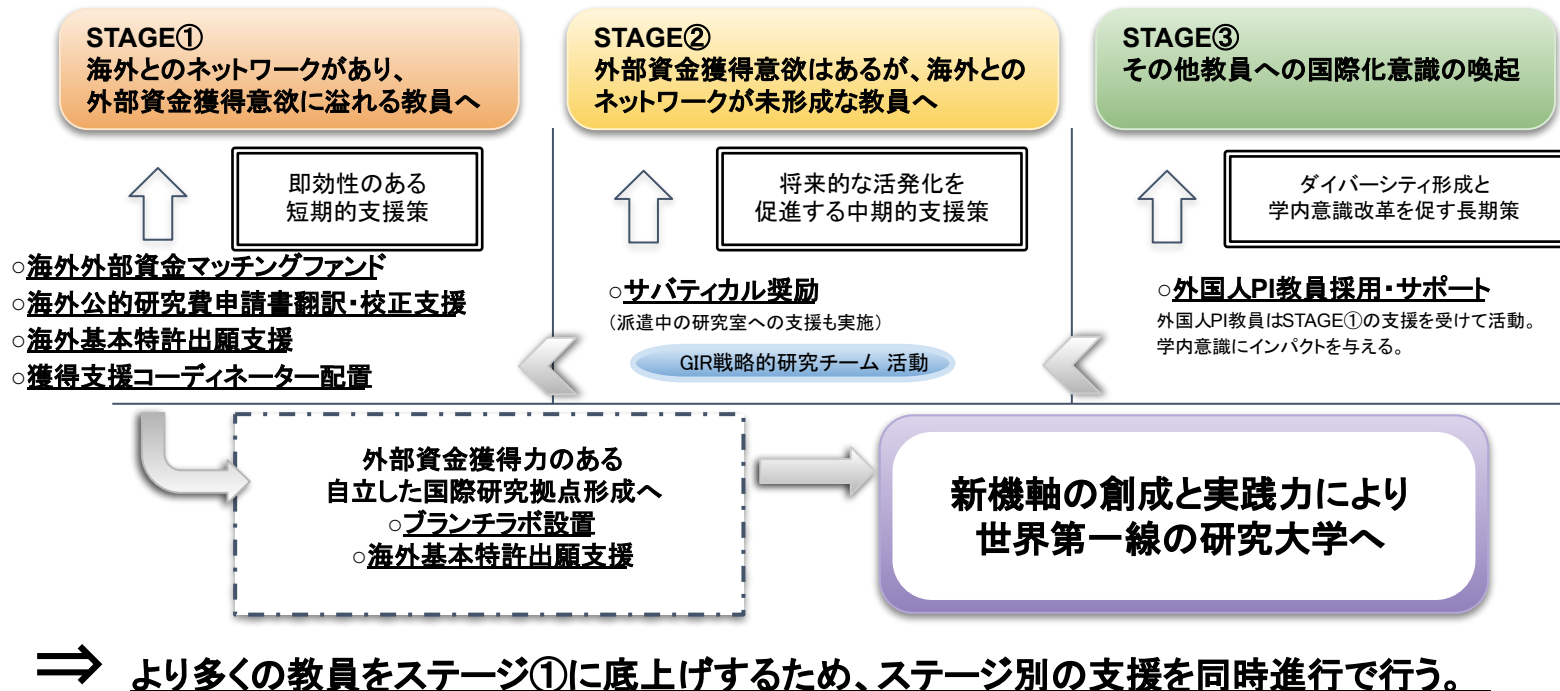
海外基本特許出願支援

海外企業へのアピール強化
国際シンポジウム、展示会アカデミックフォーラムでの講演の奨励・支援

R4年度



Global Research Hub 支援策相関図





GRH - 海外外部資金獲得支援

国内主要大学と比較した本学の現況 出典:文部科学省「令和元年度大学等における産学連携等実施状況について」

- ・海外外部資金契約 (R元年:国内18位)
本学研究者数の規模を鑑みると **契約総額と件数は主要大学以上**。契約額/件は低い。
学内でも海外案件を獲得している教員はごく一部。
- ・海外特許実施収入 (R元年:国内43位)
収入額/件は主要大学でも差異があり **”売れる”特許の見極めが困難**と思われる。
海外特許が少ない状況では安定収入は見込みにくく、本学も同様。

見解と支援方針

- ・海外外部資金は **新規獲得者の間口を広げて契約・獲得件数を増やす** ことが、増収だけでなく国内での優位性のアピールにもつながる。
- ・海外特許実施収入の増収を目的とせず、**外部資金契約のための基本特許出願奨励** を目的とした方が外部資金の増収に結び付く。

➡ **目標:本学海外外部資金獲得額 R9年度: 57,057千円***

*第4期中期計画KPI素案(R3.12月時点): 国際共著国際共同研究の受入額をR2年度比で10%増 (51,870千円×1.1)



GRH - 海外外部資金獲得支援

支援① 海外外部資金マッチングファンド

- 新規獲得した海外外部資金入金額の 20%をGIR予算よりインセンティブとして配分
- 配分上限額: 10,000千円/件(複数年契約は年度跨ぎでも 1件とみなす)

支援② 海外公的研究費申請翻訳・校正支援

- 配分上限額: 300千円/件、募集件数: 7件程度

支援③ 海外基本特許出願支援

- JST支援対象外のPCT出願経費を支援、配分上限額: 500千円/件、支援件数: 6~7件

支援④ URAC海外研究資金獲得コーディネーター人件費

- URAC支援体制増員(1名)についてGIR予算より支援



GRH - サバティカル奨励・ブランチラボ誘致 他

サバティカル奨励

教授職相当(55歳未満)のサバティカル奨励により、海外外部資金獲得に資する国際共同研究推進や、本学と外国人研究者との関係深化を図る。年間 2件を想定。

- 3カ月前後の渡航滞在費(2,500千円上限) ※短期間少額案件も需要がある場合は予算状況を鑑みて調整
- 渡航中の研究室運営支援員人件費(2,500千円前後)

ブランチラボ誘致

国際性の高い国内機関や海外機関と連携するブランチラボを誘致し、3年間の初期費用を支援する。R4年度に2ラボ誘致予定。定着化が望める場合は支援を継続する。

最終的には各室が外部資金を獲得し、自立運営できる研究拠点の形成を目的とする。

- ラボスペース費用 1,500千円×3年 / スタートアップ資金 4,500千円×2年
- 研究室運営支援員人件費 ポスドク 6,000千円×3年、事務補佐員 2,500千円×3年

国際共著論文(本学卒業生対象)オープンアクセス料補助

URACの学生向け論文OA補助を準用し、本学卒業生を対象とした補助を GIRで実施。